

# 会 議 録

全部記録 要点記録

<b>1 会議名</b>	令和5年度姫路市介護予防事業施策評価委員会
<b>2 開催日時</b>	令和6年2月22日（木曜日）15時30分～17時00分
<b>3 開催場所</b>	姫路市総合福祉会館 5階 第3会議室
<b>4 出席者又は欠席者</b>	介護予防事業施策評価委員会委員（出席3名・欠席2名） 事務局（地域包括支援課・保健所健康課）
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可・傍聴人：0名
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 介護予防事業施策の概要について</p> <p>(2) 介護予防事業施策の実績について</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 姫路市の介護予防事業施策に関する戦略について</p> <p>(2) 今後の介護予防事業施策の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・運動機能にリスクがある人へのアプローチ</li><li>・口腔、栄養指導の積極的な活用促進</li><li>・いき百を除く地域の通いの場を詳細に把握する</li></ul>
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

## 1 委員会の趣旨説明

## 2 委員紹介

## 3 報告事項及び協議事項

介護予防事業に関すること

- (1) 介護予防事業施策の概要について 【資料1－2頁】
- (2) 介護予防事業施策の実績について 【資料2－9頁】
- (3) 姫路市の介護予防事業施策に関する戦略について 【資料2－9頁】
- (4) 今後の介護予防事業施策の運営について 【資料9頁】
  - ①運動機能にリスクがある人へのアプローチ
  - ②口腔、栄養指導の積極的な活用促進
  - ③いき百を除く地域の通いの場を詳細に把握する

## 4 質疑・意見

### (1) 介護予防事業施策の概要について

### (2) 介護予防事業施策の実績について

・質問票のデータはどのように収集したか。

→実施の主体は後期高齢者医療保険課である。地域包括支援センターはいきいき百歳体操の継続支援として3か月に1回通いの場に出向いている。その際に参加者に質問票を記載してもらい、回収した質問票を後期高齢者医療保険課へ送付しデータ化している。

・質問票の回答者に対し、現場でフィードバックなどは行っているか。

→地域包括支援センターの保健師または看護師が通いの場に行っており、回答結果についてその場で助言などを行っている。質問票は複写になっており、うち1枚は本人に返しているため、その際にフィードバックを行う。

・KDBシステムは各課で閲覧できるのか。

→当課の所有はなく、同部内の介護保険課の端末を活用している。

・通いの場中断者の疾患について、KDBシステムでデータを確認する作業はどのようなものか。

→中断者それぞれのデータを1件ずつ照合して確認する作業が必要である。そのため、100件を超えるデータ量になると確認作業にかなりの時間を要する。

・通いの場の参加率について、国の目標は令和7年度に高齢者人口の8%とのことだったが、姫路市の目標も同様か。

→令和8年度までを見据えた第9期介護保険計画において、国と同じ8%という目標を掲げている。

・いきいき百歳体操の参加者を増やすための取り組みは何か。また、家族など50～60歳代への周知を行っているか。

→参加者を増やす取り組みとして行っているのは、普及啓発活動のほか、今年度開始した通いの場参加ポイント事業だが、高齢者にスマートフォンを使ってもらうことへの難しさがあり、まずは丁寧な操作支援が必要な状況である。周知に関しては、生活支援体制整備事業等で地域の各団体が集まって高齢者の支援について話し合う機会をもっており、通いの場の継続や必要性についても協議を行っており、そこから通いの場の立ち上げにつながったケースもある。ただ、若い世代への働きかけは十分ではない。また、介護予防プランの立案時には、通いの場への参加を意識して入れてもらうように周知をしている。

## 5 協議

### (1) 姫路市の介護予防事業施策に関する戦略について

戦略は「通いの場への新規参加者を増やし、参加の中断を防ぎ、参加者が10年後も通いの場に言い続けることで要介護状態になる人を減らす」である。

中断者の原因を把握するためにデータを地域包括支援センターに依頼の上取得したが、9ページの結果のとおり約8割が分析のできないデータであった。分析ができたデータ数は26人分である。現場の意見としては、氏名・生年月日の個人情報を取得することに対する負担の大きさがあるとのことであった。このことから、中断者のデータ取得を来年度以降も継続していくことが有用であるか協議を行う。

#### 委員からの意見

- ・取得できたサンプル数が少ないため、全体の傾向を把握するための数字としては足りないと考えられる。
- ・現場の負担に対して得られる数が少ない。多くのデータを集めなければ結果や解決策は出てこない。
- ・介護予防の効果について、通いの場に参加する要支援の人が要介護にどのように遷移しているのかを示すデータが必要である。
- ・理学療法士学会で多疾患併存状態の方へのアプローチを検討しているが、口腔に関する問題を抱えていると認知症に進行しているというケースが多くみられる。
- ・質問票の結果で口腔のフレイルリスク者の割合が高いことから、オーラルフレイルが重点課題であると考えられる。

#### 結論・今後の方針

- ・中断者のデータ取得について、来年度以降は見合わせる。
- ・質問票のデータを利用し、通いの場の要支援者・要介護者の変遷についてのデータを示す。

### (2) 介護予防事業施策の運営について

#### ①運動機能にリスクがある人へのアプローチ

質問票実施者のうち、ほぼ全員が運動機能にリスクがあると回答していることがわかった。また、通いの場への中断理由として運動器の障害が高い割合を占めている。姫路市では運動指導士派遣に加えて、通いの場参加者の心身機能の評価、助言を行う地域リハビリテーション活動支援事業を実施しているが、利用数は極端に少なく、地域包括支援センターから「グループの選定が難しい」との意見あり。そのため、質問票をグループごとに分析し、市から包括へフィードバックする方法を考えている。事業の効果的な活用方法について助言を受けたい。

#### 委員からの意見

- ・質問票の結果で、通いの場において運動機能にチェックが入る人が9割いることが気付きである。ハイリスク者として挙げた人のいる現場にはリハ職が出向する方がよい。リハ職としても地域にどんどん出ていくべきと感じている。
- ・質問票の分析結果を地域ごとに出し、地域包括支援センターに伝えて、リスク者が必要な指導を受けられるようフィードバックすべきである。質問票に答えた人に対しても、結果報告を行う必要がある。
- ・フレイルとは、虚弱な状態に陥っても元に戻ることができるという前向きな概念であるので、それを市民に伝えていけるとよい。

## ②口腔、栄養指導の積極的な活用促進

専門職派遣のうち、歯科衛生士、栄養士の利用数が少ない。質問票の分析結果を地域やグループ別にフィードバックする方法に加えて、専門職向けの講座の開催を考えているが、活用促進の方法について助言を受けたい。

### 委員からの意見

- ・ 歯科医師会や栄養士会と連携し、地域で健康教室の開催等を行ってもらえるように依頼するとよいのではないか。
- ・ 男性は口腔ケアに無頓着な傾向にあると考えられる。口腔の問題に関して、いずれ全身に影響を及ぼしていくものであると健康教育を行うことが重要である。

## ③いき百を除く地域の通いの場を詳細に把握する

地域のグランドゴルフや趣味活動の会など、いき百以外の活動を行っている場も通いの場として把握することで、市はいき百以外に通う市民の状況を把握・評価でき、またいき百に興味のない人にも社会参加を促すことができるのではないかと考える。この視点に関し、意見を受けたい。

### 委員からの意見

- ・ 例えば認知症サロンは家族同士が交流するなどして支援者の負担解消につながる。地域の通いの場がどれくらいあるのか、わかりやすく地図などを用いて視覚化できると参加者の増加につながると考えられる。
- ・ コロナ禍以前には、姫路市の認知症サロンは今よりたくさんあった。補助金制度の整備を行ったことにより減少したとのことだが、認知症患者を診る者としては、姫路市でたくさん認知症サロンの取り組みがあったことは良いことであったと考える。地域のコミュニケーションの場は色々あると思われるので、通いの場として取り込んでいくことで参加者が沢山集まってくるのではないかと考える。
- ・ いき百など体操には男性の参加者が少ないため、男性が参加しやすい場が必要である。勝負事やものづくりであれば比較的男性は参加しやすい。
- ・ 人口減少が想定よりも極めて早く進んでいる。60～65歳以上は年齢の近いもの同士で助け合っていかなければならない時代である。地域の繋がりをつくるためにも、通いの場は重要であると考え。人と会うということが重要である。

## 6 閉会